



インド

34 国道24号線拡幅・改良事業

A
B
C
D

首都デリーとウッタル・プラデシュ州 (UP州) の州都ラクノウを結ぶ国道24号線のうち、UP州ガジヤバード、ハプール両市区間を対象に、車線の拡幅およびバイパス建設を行うことにより、同区間の交通円滑化を図り、もって道路周辺地域の経済・社会環境の改善に寄与する。

承諾額/実行額	48億2,700万円/27億9,500万円
借款契約調印	1995年2月
借款契約条件	金利2.6%、返済30年(うち据置10年)、一般アンタイト
貸付完了	2002年4月
実施機関	道路交通省



外部評価者 中村 千亜紀(グローバル・リンク・マネージメント(株))
現地調査 2004年9月

評価結果

本事業では、ほぼ計画通りに国道24号線の拡幅(2車線から4車線)、バイパス建設、既存道路の舗装および橋梁やカルバート(横断構造物)の新設・補強が行われた。自然環境に配慮するためバイパスの高さ調整等を行ったことにより、期間は計画を上回ったが、事業費は計画を下回った。

対象区間(デリーから27.6~48.6km地点)の移動時間が事業実施前の1時間30分から25分へと大幅に短縮され、年平均日交通量は事業実施後の2003年9,812台から04年は1万987台へと約12%増加した。また、道路輸送量は貨物で2万400トン/日(02年度平均)から2万1,000トン/日(03年度平均)、旅客で10万人・km(02年度平均)から10万5,000人・km(03年度平均)へと増加している。

本事業後、国道24号線沿線に大規模店舗・住宅、大学が建設されるなど、開発が進んだ。受益者調査によると

約80%が「教育機関・マーケット等へのアクセスへの改善」を、同じく約80%が「農産物の輸送量増加・時間短縮による所得の向上」を挙げている。

運営・管理を担当している国道公団の技術および体制面に問題はなく、国道料金回収状況は順調で、財政面は良好である。

第三者意見

主要幹線道路の一部を整備した本事業の妥当性は認められるが、道路網全体の開発に関しては課題も多い。運用効果指標の設定や今後の検証については改善の余地がある。

有識者 Mr. Bibek Debroy (NGO)

ケンブリッジ大学修士(経済学)。現在、ラジブ・ガンディ現代研究所所長、ラジブ・ガンディ財団デリー代表等。専門はマクロ経済学。

本事業の実施地域



(点線部分が本事業区間)



本事業実施後、沿線に建設中の歯科短大